

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第34号  
2013年3月13日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
〒千葉市中央区要町2-8 DC会館内  
TEL 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

# 6・9全国集会まで3カ月

# 10万筆署名を 結審策動 打ち破る



国鉄分割・民営化で不当解雇から26年 (記事裏面)  
すみだ産業会館で2・17集会 650人が結集  
解雇撤回と職場を一体で外注化粉碎の新たな闘い

## 全国運動の転換つくった2・17

国鉄闘争全国運動事務局

「国鉄分割・民営化で不当解雇から26年／2・17労働者集会」と「2・17全国活動者交流会」は、国鉄闘争全国運動にとって一つの転換点をつくりだした、と考えています。

## 外注化阻止の本格的闘いへ

第一に、2・17は、外注化闘争の第2ラウンドを打ち出した集会として非常に重要な場となりました。

動労千葉にとって昨年の10・1以後とは、13年間にわたって暴露し、批判し、阻止し続けてきた外注化が強行され、その意味では、第2ラウンド

の現実のもとでの日々の労働争の第2ラウンドを打ち出した集会として非常に重要な場となりました。組合員はJRとCTS (JR千葉鉄道サービス) に分断されました。毎日この瞬間も外注化の現実が強制されています。その中で外注化阻止闘争の再構築をかけた格闘でした。

## 6・29判決と署名運動の地平

第二に、これは、6・29判決と署名運動の地平がつくりだしたものです。国鉄分割・民営化反対闘争20数年間の意義の歴史性と今日性を示すものです。

1047名解雇撤回闘争が、日本労働運動の再生にとって依然としてきわめて重要であることを改めて示しました。

1987年の国鉄分割・民営化以後の日本労働運動の深刻な歴史の後退の中において、国鉄闘争こそが全国の職場・地域で苦闘する労働組合・労働者を支えてきました。負の面から言え

れば外注化と闘うことに労働運動の現実性があるかどうかをかけた試練でした。

2・17は、動労千葉の闘いが牽引となり、なおかつ、全国の職場・各産別での外注化・民営化・非正規職撤廃をかけた闘いが全体を通して一体となり、一つの転換点と地平をつくりだしつつあることを端的にはいえます。

日本の労働運動の現状・課題・壁を突破するものは何か。それは国鉄闘争であり、わけても外注化との闘いにあります。ここで突破しない限り、日本労働運動の再生はない。10・1についてしっかりと総括することが大切だと思えます。

今回の外注化は、動労千葉に対する組織破壊攻撃としては「集大成」と言っても過言ではありません。この数年間、幕張支部の役員は次々と強制配転となり、配転先の職場は今回すべて外注化されました。検修職場

の支部は外注化によって分断され、支部役員はJR本体に残される一方、青年部は全員が強制出向になりました。

JR資本は、文字どおり、動労千葉を徹底的に破壊し、労働者を従属させるために外注化攻撃をかけているのです。外注化がもたらす無責任さ、矛盾、デタラメをも武器にして、外注化の現実を日々の労働の中で強制してくるのです。

これを本場に打ち破る、外注化阻止の第2ラウンド闘争に入ったことの決定的な意味です。3月1日、ついに究極の分断—組織破壊攻撃を打ち破る乾坤一擲のストライキが打ち抜かれました。3・1ストライキは動労千葉にとって、東中野事故1年を期して決起した1989年12月スト (JRで初めての本格的スト) に匹敵する、そして外注化阻止闘争にとって決定的なストとなったのです。

「1047名は日本労働運動の宝だ。国鉄闘争が血管のように職場や地域の闘いをつないでいく」という呼びかけ人の入江史郎さんの提起は重要です。全労連や浦々の大中小の闘いをつないでいくのが国鉄闘争です。血管を通して栄養や酸素は供給されるのです。

2・17は、国鉄闘争の現在の意義を明らかにし、国鉄闘争全闘争とは何か、何を指すのかを明らかにしました。参加者が共通するイメージを打ち出すことが多少なりともできたと思

えています。

とりわけ6・29判決と署名運動の威力です。6・29判決は、4者4団体の4・9政治和解を乗り越える地平を具体的に実践につくりだしました。集

## 国鉄軸に労働運動の再生へ

第三に、動労千葉の第2ラウンド闘争を牽引車に、西部ユニオン鈴木コンクリート分会など職場から闘いを開始が2・17全体の高揚をつくりだしました。労働運動の実践こそが皮も二皮も私たちを変えるのです。

東京、大阪……攻撃は始まっています。私たちは、どのように闘うのか。

かつて国鉄分割・民営化との闘いの中で、全国各地の国労内において闘う勢力は、東京や千葉、大阪、秋田、新潟……支部や分会で闘う執行部を樹立し、動労内部においても水戸や高崎、西日本などで闘いを必死に組織しました。こうした闘いの地平があって現在の闘いもあり

ます。これをあらためて教訓化したいと思えます。

今一度こういう闘いに突っ込んでいくことが必要です。JRだけでなく自治体や教労、郵政で闘う支部・分会執行部を打ち立てる闘いに入ることです。他の労働運動勢力は闘いを回避し、裏切りの道を進む状況であり、勢力が小さくとも十分に挑戦権があります。逆にそういう決戦を構えなければ私たち自身が吹き飛ばされます。

職場で闘いを開始することと1047名解雇撤回闘争は同じです。4・9政治和解の「教訓」は、何よりも職場での闘いと解

会での下山房雄さんの訴えや芹沢寿良さんのメッセージにも説得力をもって示されています。この署名を本場に全国運動に生かすことが問われています。

これこそがもっとも現実性のある労働運動再生の路線です。逆にいえば、敵がもっとも恐怖していることでもあります。全国運動の路線は、日本労働運動にとって核心をなす挑戦なので、その出発点に立つところにきているのです。

※ 昨年から今年にかけての6・29判決や外注化闘争の経験を通して、国鉄闘争全国運動は、あらためて国鉄闘争を軸にして労働運動の再生をめざすという「原点」を再確立しました。

これを転換点に具体的に実践に入ることが求められています。署名と物販を導水路に、国鉄闘争の支援・共闘組織、動労千葉を支援する会として地域・職場に労働運動の実践のための運動体をつくりだしましょう。

動労千葉鉄建公団訴訟の控訴審 (高裁) は、難波裁判長の早期最終策動をめくり風雲急を告げています。10万筆署名はまったなしです。6・9全国集会までの3カ月間は本場に正念場です。6・9シビックホールを集約点に地域・職場での着実な前進へともががんばりましょう。

## 分割・民営化で不当解雇から26年

# 2・17労働者集会に650人

下山氏 解雇撤回署名を熱烈アピール／JR・自治体など外注化阻止の決意



国鉄分割・民営化によって国鉄労働者7628人がJR不採用となった1987年2月16日から26年。東京・錦糸町のすみだ産業会館で2月17日、国鉄闘争全国運動の呼びかけで「国鉄分割・民営化で不当解雇から26年／2・17労働者集会」が開催されました。約650人が集まり、国鉄闘争と職場からの闘いが一体となった熱気あふれる集会となりました。

主催者あいさつでは、元国労九州本部書記長の手嶋浩一さんが「解雇自由の攻撃が強まり、闘わなければ奴隷になる時代。経営者がいなくても労働者は生きていける。これを職場でどんな訴えよう」とアピール。

日本近代史研究者の伊藤晃さんは「労働者が自らの存在意義や尊厳に目覚め、労働者が労働者階級になっていく重要な場」として全国運動の意義を語り、

### 署名拡大の訴え

動労千葉争議団の中村仁さんは「高裁で必ず勝ってJRに復帰する」と語り、国労闘争団の成田昭雄さんは「解雇された者は解雇撤回以外にない」と闘志を示しました。

動労千葉顧問弁護士の葉山岳夫弁護士は6・29判決について

「4・9和解を跳ね返して闘ってきた全国運動の大きな成果」とその意義を述べました。「解雇撤回・JR復帰を求める高裁署名運動」の呼びかけ人の訴えでは、下山房雄さん(九州大学名誉教授・JR東日本株主会前会長)と杉本一郎さん(自交連連北海道地連書記長)が「国鉄闘争は終わってない」「労働運動の原則を据えた、多くの賛同を得られる幅広い運動を」と署名の拡大を呼びかけました。

### 現場からの決意

外注化阻止・非正規職撤廃の闘いに向けてJR職場からの決意表明では、千葉鉄道サービス(CTS)へ強制出向された動労千葉の関道利執行委員長が、CTSとの36協定締結をめぐるCTSでのたらいまわしを弾劾し木更津支部の岩瀬恵一副支部長は、久留里線ワンマン化阻止へ職場・地域から闘う決意を述べました。

動労水戸の石井真一委員長は、水戸支社での外注化に伴う業務破綻の現実を暴露し「下請会社の労働者、清掃労働者も含めて団結すれば勝てる」と述べ、動労連帯高崎の漆原芳郎副委員長は組合の枠を越えた偽装請負摘発の取り組みを紹介しました。

動労千葉青年部の滝厚弘・副青年部長と木科雄作さん、動労水戸の照沼靖功さん、動労西日本の山田和広書記長ら青年労働者の決意が続きました。ライフサイクルによる強制配転から3年となる滝さんは、3月1日付で運転士への復帰をかけた闘いを報告しました。

強制出向無効確認訴訟について石田亮弁護士と森川文人弁護士が「外注化は、追いつめられた資本による絶望的攻撃だ」と意気込みを語りました

大阪の自治体労働者らの決意表明が続き、最後に、呼びかけ団体でもある全金本山労組の長谷武志副委員長の団結カンパニーで集会は終わりました。

### 動労千葉鉄建公団訴訟控訴審

## 難波裁判長の結審策動許すな

東京高裁で2月27日、解雇撤回・JR復帰を求める鉄建公団訴訟控訴審が行われました。なんと高裁の難波裁判長は、「もういいでしょう」と次回控訴を予告しました。2回目の口頭弁論でのこの暴言です。1審では、原告である動労千葉の9人が当初は採用候補者名簿に記載されていたにもかかわらず、JR設立委員会に提出される直前に、葛西職員局長(現JR東海会長)の指示によって、排除されたことが明らかにになりました。

### 外注化の正体暴く

#### 出向無効確認訴訟

東京地裁で同日、外注化に伴う強制出向の無効確認訴訟が行われました。

外注先の千葉鉄道サービス(CTS)では、36協定も結ばずに時間外・休日労働を命じる違法行為が続いています。動労千葉の追及に対しCTSは「協定を結ばないなら事業所を廃止する」と開き直っています。

法廷でこのことを追及するとJR側代理人は「(CTSの問題は)JRには関係ない」と言い放ちました。CTSへの出向を命じたのはJRではないのか。JRは一切責任をとらず、労働者を無法地帯へ突き落とす外注化の正体に怒りの弾劾がたたきつけられました。



次回裁判は、同じく5月8日(水)午後1時5分から527法廷。

## 国鉄100万人陣形を毎回実感 実践すれば手応えを必ず感じる

解雇撤回・JR復帰を求める高裁署名 1人で千筆以上集めたTさん

外注化・非正規雇用化反対の闘いをあらゆる産別・地域で発展させる時が来ました。

その決定的な武器は、動労千葉鉄建公団訴訟の「解雇撤回」署名です。「1047名解雇撤回・JR復帰」は、国鉄闘争全国運動の原点です。

6・29判決では「不当に差別する目的、動機の下に、名簿不

記載基準を策定した」と動労千葉への敵意(不当労働行為意思)を認定させました。もはや高裁

では、中曽根や葛西(JR東海会長)を証人喚問する以外に逃げられないところまで追い詰め

たのです。だから高裁の難波裁判長は「もういいでしょう」と逃げ、5・8結審にひた走っているのです。

署名の本格的取り組みと10万筆は、この壁の突破をかけた闘い

です。不当労働行為(労働犯罪)の「下手人を逃したまるか、責任を取らせる」JR復帰をかちとるといふ、怒りと意気込みが大事です。

同時に、派遣法の下で労働者の地位も権利も、労働基準法や労働安全衛生法までもなくする

署名の本格的取り組みと10万筆は、この壁の突破をかけた闘い

です。不当労働行為(労働犯罪)の「下手人を逃したまるか、責任を取らせる」JR復帰をかちとるといふ、怒りと意気込みが大事です。

同時に、派遣法の下で労働者の地位も権利も、労働基準法や労働安全衛生法までもなくする

署名の本格的取り組みと10万筆は、この壁の突破をかけた闘い

です。不当労働行為(労働犯罪)の「下手人を逃したまるか、責任を取らせる」JR復帰をかちとるといふ、怒りと意気込みが大事です。

同時に、派遣法の下で労働者の地位も権利も、労働基準法や労働安全衛生法までもなくする

署名の本格的取り組みと10万筆は、この壁の突破をかけた闘い

です。不当労働行為(労働犯罪)の「下手人を逃したまるか、責任を取らせる」JR復帰をかちとるといふ、怒りと意気込みが大事です。

同時に、派遣法の下で労働者の地位も権利も、労働基準法や労働安全衛生法までもなくする